

F Mミラクルパウダー FM-101

(中性廃液処理用)

使用手順書

取扱い上の注意



- 本品は食品ではありません。廃液処理の用途以外には使用しないで下さい。
- 使用に際しては必ずゴム手袋とマスクを着用して下さい。
- 子どもやペットの周辺には絶対に置かないで下さい。
- 開封したものが余った場合は必ずジッパーを閉じて保管し、できるだけ早めに使い切ってください。

救急処置



- 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- 目に入った場合には、直ちに多量の水で洗い落とし、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- 皮膚に付着した場合には、多量の石けん水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化がある時には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。

1. 準備

(1) 作業を始める前に次のものを用意して下さい。

☑ 用意するもの	備考
<input type="checkbox"/> F Mミラクルパウダー	FM101 約 1kg 入 1 袋
<input type="checkbox"/> バケツ等	廃液に本品(FM101)を混ぜる処理に使用する容器
<input type="checkbox"/> 対象廃液	水性染料廃液、含油排水等
<input type="checkbox"/> 水	対象廃液と同じ量 (※含油廃液を処理する場合のみ必要)
<input type="checkbox"/> ゴミ袋	丈夫で破れにくいもの(できれば 2 枚重ね)
<input type="checkbox"/> かき混ぜ棒	先が尖ったり角張ったりしていない棒状のもの
<input type="checkbox"/> マスク	微粉末を吸引しないため
<input type="checkbox"/> ゴーグル (保護眼鏡)	微粉末が眼に入らないように保護するため
<input type="checkbox"/> 手袋	廃液から手肌を守るため

(2) 廃液を処理する前に、あらかじめ下図のように、ゴミ袋をバケツ等の中に広げておきます。

- 作業や廃棄の途中で袋が破れると、中身がこぼれてしまうことがありますので、ゴミ袋は必ず破れにくい丈夫なものを用いるか、2 枚重ねにしてご使用下さい。



2. 処理作業

(1) 廃液を、バケツ等に準備したゴミ袋の中に注ぎ入れます。

- ※ 水性染料廃液等、水を主成分とする廃液を処理する場合：
 - 廃液の量は、最大でも容器の7分目を超えないようにしてください。
- ※ 含油廃液を処理する場合：
 - 廃液の量は、最大でも容器の3分目程度を目安にしてください。

(2) ※含油廃液を処理する場合のみ

(1) の容器に、注いだ廃液と同量の水を注ぎ足します。

- 廃液と水の合計量は、最大でも容器の7分目を超えないようにしてください

(3) 廃液に F Mミラクルパウダーを入れ、手早く、均一に混ぜるように棒などでかき混ぜます。

約数分で粘り気が出るので、時々かき混ぜて下さい。

- 本品1袋(約1kg)当たりで処理できる量は、対象廃液の種類によって異なります。
- パウダーの細かい粒子が飛び散ることがありますので、必ずマスクを着用し、パウダーを直接吸い込まないようにして下さい。
- 開封したものはできるだけ早めに使い切ってください。



(4) 通常数分でおから状になります。

- ただし、廃液の種類等によっては、おから状にならずにペースト状になってしまうことがあります。このような場合は、おから状になるまで本品を追加し、かき混ぜて下さい。



3. 廃棄

- ゴミ袋の口を縛ってペール缶から取り出し、廃棄します。
- ゴミ袋を上向きに取り出そうとすると取り出しづらく、摩擦で袋が破けることがあります。必ず右図のようにペール缶を横に倒してから、ゴミ袋を引き出すようにして下さい。
 - おから状の固化物は焼却処理が可能ですが、処分方法は各市町村のルールに従って下さい。



成分：高吸水性樹脂、天然有機物 **内容量：**約 1kg **用途：**水性染料廃液、含油排水等

特長：中性領域^{*}の廃液をおから状に固化します。(※ pH5~9)

使用量：廃液の種類等によって使用量が異なります。

製造者：富士メンテニール株式会社 電話 (03)-6403-1490 FAX (03)-6403-1491

〒105-0021 東京都港区東新橋2丁目11-4 Mayapada Shiodome Plaza 4階